

## ならコープ 毎月10日 「復興支援バザー」開催

ディアーズコープいこま店では、今年4月から毎月10日(10～12時)に店頭での「東日本復興支援バザー」に取り組んでいます。



多くの方がバザーを利用。後ろには、被災地のパネル展示も。

ならコープ・ディアーズコープいこま店の「東日本大震災支援バザー」で売られているものは、南三陸戸倉町(宮城県)で作られている雑貨(ティッシュカバー、エプロン、ブックカバー、ブローチ、巾着など)やマドレーヌ。販売しているのは、いこま店のボランティアグループのメンバーです。

このバザーは、2月25日～3月

2日に遠野災害ボランティアに行った店長の土阪元宏さんが、奈良へ帰ってからなんとか継続して現地の復興を応援したい、という熱意から始めたものです。バザーの収益は、ならコープ職員が商品を作られた方に直接届けています。

また、上記バザーの他、ならコープでは、他生協と合同でバスボランティアを5月3～6日に行なってお

り、6月にも22～25日の日程で運行する予定です。さらに、夏には、「福島の子ども保養プロジェクト」を行なう予定であり、5月に福島に視察に行くなど、継続した支援活動を行なっています。

## 日本生協連 復興支援ボランティア隊結成

4月28日～5月1日に、日本生協連の復興支援ボランティア「笑顔とどけ隊」※が岩手県宮古市田老地区へのバスボランティアを行ないました。



地元の方と協力して2mの大木を運んだ。

岩手県宮古市田老地区へのバスボランティアに参加したのは、日本生協連職員とその家族、31人です。田老町漁協女性部との植林や、炊き出し、津波で施設をさらわれた「沼の浜キャンプ場」の清掃、ふれあいサロンや、復興支援団体「かけあしの会」のあわびの貝殻アクセサリー製作の手伝いを行ないました。また、

いわて生協マリンコープDORA店長の菅原則夫さん、理事の香木みき子さん、田老町漁協業務部長の前田宏紀さんから、震災当初のことや現在抱える問題などを話していただく機会を設け、現地の状況の把握と、今後継続し

てボランティアを行なうためには何が必要かを全体で共有しました。

今後も、継続して活動を行なっていく予定です。

※「笑顔とどけ隊」は、日本生協連職員の有志が立ち上げたボランティア組織で、5月30日現在、会員数85人。今後、継続的な復興支援活動を展開していく予定。